

2 社会性ストレス誘発精神行動異常に対する漢方薬の効果

伊藤 直樹

長期間のストレス暴露は、うつ病などの精神疾患の発症や増悪の危険因子として広く認識されている。また、その背景にはストレス暴露によるネガティブ思考 (negative cognitive bias: NCB) の誘導が関与することも報告されている。本研究では、社会性ストレスモデルの chronic social defeat stress (CSDS) 負荷マウスが示すうつ様行動および NCB に対する漢方薬「香蘇散」の効果並びにその作用メカニズムについて検討した。その結果、CSDS 負荷マウスで認められたうつ様行動としての忌避行動は、香蘇散の反復経口投与により抑制された。一方、CSDS 負荷により誘導された NCB 関連行動は香蘇散投与による改善は認められなかった。香蘇散の抗うつ様作用メカニズムの探索では、脳内炎症反応で中心的な役割を果たす microglia の挙動に注目し検討を行ったところ、CSDS 負荷で誘導された脳内 microglia の活性化に対して、香蘇散投与による抑制効果が認められた。以上の結果から、香蘇散は社会性ストレスにより誘導されるうつ様行動に対して改善効果を発揮することが示唆され、それには microglia の活性化の抑制による脳内炎症反応の制御が一部関与している可能性が示された。

社会性ストレスモデルにおける香蘇散の抗うつ様作用メカニズム

